夕刊
磐城新聞
十一月二十一日發行
定價 一ヶ月 金六十五錢
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

木曜文藝

日記むだ話

千鳥あきら

きのふ、マルトモ書店で新年の日記が千種萬様の装幀で飾られてゐるのを見た。

昔は日記といへば博文館か、積善館のものに限られてゐたものだといふが、二三年以來、日記の種類がベラボーに激增して、中には十年間日記といふ頗る氣の長い日記が出來て、いみぢくも『生命は永遠なり』を思はせてゐるものもある

然し、日記は毎年新らしい氣持ちで紙の匂ひもほのかなうちに書き初めるところに味があるものであつて、五年も六年も、糟糠の妻のごとく手垢ついた頁を繰りひろげることは甚だシンが疲れることであらうと思ふ

○

尤も、私は根氣がないせいか、これまでに日記といふものを一冊もつけとほしたことがない

中學時代、當用日記へ短歌を一日一作主義で日記代りにやつていつたことがあつたがこれとて遂には三日四日位サボつてしまふ仕末で、どうも日記なんていふ根仕事は私にとつてなか／＼の大事業だと思つた

只、その短歌の一日一作主義は、誰もやることであらうが益するところがないでもなかつた

○

フランクリン自叙傳だつたかに、毎夜その一日の行ひ、道徳律の項目に分けて修養をつんだといふ話がある。それを思ひ出して、兎にかくサラリーマンは自己修養をやつて、萬一の誠にそなへなければならないと考へて、元日、二日、三日とつけていつたが、どうも夜になると眠くなる癖で、日記なんてつけるまに眠つた方がい、といふ結論で、四日目からは萬一の誠もヘチマもなくなつてしまつた

これは去年も今年もそうであつたし、來年もまたそうであると斷言して憚らないのである

○

いふまでもなく、日記は眞實を書くところに味があるのであつて、虚飾と衒氣はまつたく禁物であるが、一方また何もかもブチまけてつけたんでは、スワといふ場合飛んだ失態を招く原因ともなり、女房に胸倉をとられる證據物件ともなるものであるかも知れない

こういふ人達のために錠前づきの日記といふものが賣り出されてゐるが『これは秘密があります』と自ら標榜してゐるやうで、一寸手が出せまいと思ふ

○

近ごろ、岸田國士さんの譯でルナアルの日記が出版されたが、ルナアルの心ゆくばかり伸び伸びとした筆致が、さすが岸田さんの名譯で實によく描出されてゐる

嘗て、八犬傳の馬琴が、盲目になつてからの苦惱や生活や、身邊雜事をその日記で讀んでゆくうち、私は馬琴といふ人が何となく好きになつてきたことを憶えてゐる

○

なんと云つても日記ほどその人の平面を窺知し得るものはない。この意味で、日記はつまらない小說よりは遙かに興味が深いものである。そこで私は思ふ、日記は自らつけるべきものに非ずして、宜しく人のを讀んだ方が面白いものだと

一つの偶感

山檜之介

先だつて讀賣新聞に、詩人萩原朔太郎氏、歌人前田夕暮氏などが主唱で『山村暮鳥遺稿全集』を刊行するとかいふ記事が出てをつたと佐々木顯さんが來て話してをつたが、これなどは美はしい友情のあらはれであつて、水戸市に住める遺族たちも感泣してゐることであらうと思ふ。

それにつけても泌み／＼腑甲斐ないと思ふのは、暮鳥が詩の種子を蒔いてくれた平町の詩人たちである。三野混沌などは相當なところで名を賣つていつたから近ごろ鳴かず飛ばずであるのはまだいゝとしても、問題はあとにつゞく御連中である

ひと昔も前までは、吾れこそ暮鳥の流れを汲む者なりとか何とか大口を叩いて、ノサばつた圖々しさは今更咎めたて、も始まらないが、それにしても其の當時の世態人情は寔に幼稚と言はうか、オメデタイと言はうか、流石に白木英尾なんかは率先、鄕土文藝人に對する認識の是正を叫ぶと共に、之ら不逞詩人の一掃を計つたもので、事態はそれ程惡化してゐたのである

今にして思へば實にこれら詩人の假面にかくれたエゲツナイしろもの達が、社會風教上流したる幾多害毒は計り知れない程で、今更ら寒心の念に堪ねない。これらの連中は單り暮鳥の名を辱かしめたのみならず、また後世の文學の徒を誤まらしむるものであつたのである

▽——▲

断層

嗚呼。言易矣。行難矣

○『口舌の徒』といふのがある。よく筆をとつては、『これ／＼しか／＼のことを提唱する』といふ徒黨で尤もらしき說を立てゝ高見を吐露するのである。そこに仰せ洵に御尤もですと吾々も拜聽するのであるが、吾々として百の高見を拜聽するより一の實踐躬行が欲しいと思ふ

○『言易矣。行難矣』而も尚己れひとりしたり顔して、あゝだこうだと昂然と說き立てる様、寔に笑止の至りであるが、これは反面宛ら己れの無力を語るものであつて、折角の名論卓說も『よく嘶づる奴だ』位にしか思はれない

○近ごろ、誰れとかの胸像を作れとか、文藝人協會とかの出現を豫言する（テモ正氣の沙汰なりや』とか堂々署名入りの提言があつたが、こういふおエライ方々からして先づ躬づからその實現に盡力して頂ければ山の上でヤレソレ騷いでゐるより手ツとり早いではないか

○男一匹、それ是なりと信じたら實踐躬行以て事に當るの氣概が欲しい。なまじ出來さうもない相談は口にしない事だ。誰が他人に口車に乘つて骨身を削るやうな阿呆は、今時の世の中に一人も居まいテ　（し）

本社主催　短歌會

一、日時　來る廿四日午前十時
一、會場　マルトモホール
一、會費　金二十錢
一、講師　新妻久滿夫氏
一、兼題　『初冬雜詠』『顏』

木曜だより

○本社再募集の平音頭『七夕祭』歌詞審査は來る二十四日短歌會終了後直ちにマルトモ食堂で選者會を開き、入賞作品を決定する筈であるが、應募の三十數篇は全部選者會席上で審査することになり、來週の本欄ではこれが入賞發表をすることにならうと思ふ

○木曜文藝欄は今では全く鄕土文藝人の中心機關となつた觀があるので、讀者層もかなり廣く固定され隨つて輯錄する原稿も地方としては相當のレベル以上でなければならないので、あまり下劣で不体裁なものは折角の投書でも掲載するわけにいかない。投書家よ、諒とせられよ

その日／＼

○

このごろ、若い女の言葉が、われ／＼の頭を惱ますまでにアケスケになつてきた

講談　黄金魔刄

(10) 高桑義生作　樋口悦也畫

雁の旅（一）

島原屋の裏門から、同勢八人の一行が、一頭の馬をひいて、こつそりと出發した。一同堅固な旅支度で内三人は武士、四人は手代、一人が馬をひいてゐる小者だ。馬には大きな長持がつけてある。武士のうち二人は一文字笠をかぶつてゐる

老女の化粧のやうな凄みを見せた白い月が、街の空にかゝつて何處かで夜がらすがガア／＼と啼いてゐた

一行は歎々として、寝靜まつた長崎の町を東に向つて急いだ。町を出はづれると、左手に諏訪神社の森が高々とそびえてゐる

『參拜なして行かう』

と、笠をかぶらない武士がはじめて口をきいた

『よからう』

『よそながら道中無事を祈るのだな』

一の鳥居、それから廣い道が社の前までズーと通つてゐる。一行は鳥居の前にて立止まつた。みんな無言で祈つた

『さあ出かけよう。これから日見峠か一骨折だ。朝までに矢上に着かう』

『當分長崎の町も見をさめか。江戸へ三百六十里あるなあ』

『考へるとうんざりするよ！』

『久世様をた見送りしたのはついこの間、今日は此方とらが不意の江戸行だ』

『あのお見送りは賑かでしたなあ。何しろ町を舉げての騷ぎだつた』

『まつたく素晴しい人氣でしたね。今までのお奉行様で、久世様ほど盛大なお見送りを受けた人はないさうだ。矢上まで行つて、まだ誰も歸らうとしなかつた……』

『あんな惜まれた方はないなあ。して見ると、人間善い事はして置きたいものだ……』

『まづ前なら盥をまかれるだらう』

『いんや、丸山中の女が泣きの涙で別れを惜む』

彼等は急に饒舌になつた

寺があつて墓地があつて其處を通ると、もう一軒の家もない。何を喋舌つて歩かうと差支へはないといふものだ。一行は田沼家への大切な主用で、これから江戸へ三百六十里を急行しようといふのだ

月の光が木洩れに、ちら／＼と落ちて、虫がしきりに啼いてゐる

丁度この九月のはじめに在任十二年に及んだ長崎奉行久世丹後守が江戸に歸つた。今もその後日話が出るほど、丹後守は在任中に功績をあげたのである

去年（天明二年）からこの春にかけて、極端な米價の暴騰、それにつゞいて頻々たる盜賊放火、それに際して丹後守の施政は、長崎市民の胸に深くきざみつけられてゐるのだ

『あゝ、當分奴の顏も見られないのか』

『ヘン、向うでは喜んでゐるだらうよ』

『馬鹿いへ』

『そのかはり江戸の女が抱いて寢られるぜ。長崎の仇を江戸で討たといふ寸法だ！』

『氣のなげえ話だ。それとも誰かこの中で、江戸に行くのが樂しみといふ者があるか？』

『まあござんせんねえ』

『氣散じの旅ならともかく飛脚も飛脚、おち／＼寢てもゐられないとは……』

『まづ有難い役まはりぢやござんせんねえ』

山嶺をきり開いた道は爪先あがり、次第にわけなくなつて來ると、自然彼等のお喋舌も、やすみがちになつた。馬の蹄がパカ／＼と物憂げに聞ゐる

道がまがると、小さな祠が見ゐた。そして祠の向うに人が立つてゐた。先頭をきつて立ち止まつた

深夜の山道に、何物だらう？

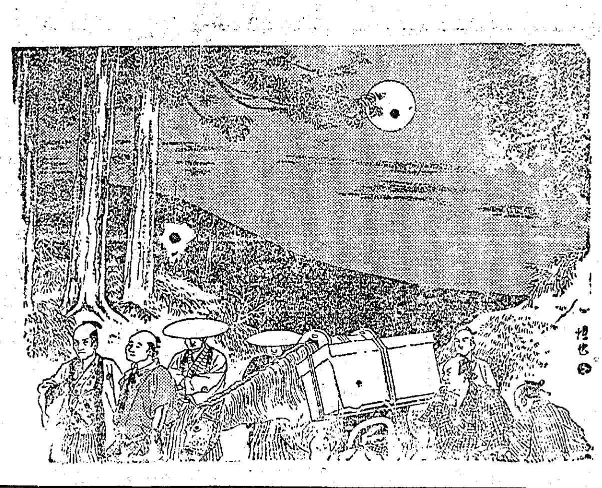
と、人影は近寄つた。女だ

『あの、もし……』

と、ふるひつくやうな好い聲で——。白い顏が月の光に照らし出された

『あツ』

と、誰か頓狂な聲をあげた



類燒
改築三週年記念
スポーツに紅葉狩りに秋冷快適の折からハイキング、ピクニツク等の砌是非御立寄を御願致します。
因みに價格は左の割引を以て御客様の御愛顧に酬ひんとする弊店の意の在る所を御酌取り下さい。
ヒレナベ（御一人前）四十五錢ヲ四十錢
ロースナベ（同）三十五錢ヲ三十錢
平町田町
石川亭
電話四三番

定評有る大塚の靴
新製品（目下大流行）
◎女學生靴　スポーツ型　三ツハトメ　五、五〇
△月星ゴム長靴　七文より十一半まで
△ゴム半長靴……入荷
△將校ゴム長靴……入荷
丸善製品
冬のアンダーシャツ　七〇より
純毛スヱター　二、五〇より
新型チヤンバー　三、〇〇より
同トレーニングパンツ類
防寒スキー靴下及びボーシ
田町の大塚へ
電話七十七番

難波醫院
內科
小兒科
入院應需
自炊の便あり
（看護婦見習、看護婦募集）
平町大町
電話五〇二番
醫學博士　難波睦

夜間診療
胃腸病
性病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）

謹告
店鋪改築の爲め十一月廿一日ヨリ向二十日間位左の所に假營業所を開設致し從前通り營業仕り候間御不便を相掛け申譯け無之候へ共何卒當分の間其處に御出の程を伏して御願申上候
十一月十九日　敬具
假營業所　大塚運動具店向
大床　石崎理髪店
各位

銅器・竹製品・籠盛花投入一式
生華用花器は
平町二丁目
㊓和久井屋
電四〇五番

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備
自炊ノ便アリ
山内醫院
醫學士　山内亨吉

探勝に療養に
常陸關南鑛泉（創業二百餘年）
附近名勝
五浦岡倉天心別莊
大津港・平潟港
勿來關・天妃山
常磐線關本驛下車バス連絡（平驛ヨリ一時間半）
效能　神經衰弱　胃腸病　神經痛
茨城縣多賀郡關南村
名湯　鹿の湯　松屋
赤津興身
一泊一圓五〇錢

冬服特賣
セビロ三ツ組　一九圓ヨリ二十三圓まで
實用向オーバー　一三圓八十錢ヨリ九圓五十錢まで
1936型Wオーバー　一九圓五十錢ヨリ二十五圓五十錢まで
トンビ　一六圓ヨリ二十三圓五十錢まで
モヂリ　一三圓ヨリ五圓五十錢まで
紺サージ外套　一六圓ヨリ十圓五十錢まで
サージ立襟服　上下 五圓九十錢ヨリ 拾四圓五十錢まで
㊣正札堂洋服店
平町四丁目　電四三六番

湯本温泉復興起業
愈々昨日正式に出願
認可より二百五十日以内に竣功
七萬七千餘圓の大計劃

湯本町の温泉復興計劃は既に過般の湯本區會に七萬七千餘圓の費用を投じ復興事業を起すことに決定したが昨二十日同町長石川德壽氏より縣保安課に對し正式發掘認可方を申請したが、右に依ると場所は同町三函二九九番地内で深度は百六十八間、延長三百七十間で二十四度三十分の傾斜で斜坑を開鑿し五十間毎に主要坑幅七尺及び副坑を設け基底にポンプを設備し揚湯するもので認可の日より直に着工し二百五十日以内で竣功を見る筈である

同温泉は明治三十年常磐線の開通以來温泉地として旅館二十餘軒あり大繁榮を來したが同三十八年町田坑の出水、同四十二年小野田坑の出水、大正二年の三星炭坑の出水等相次ぐ災禍に温度著るしく低下し遂には原脈の全滅を見るに至り往時の面影失せ寂寥のうちに今日に至つたものである

海の幸百卅萬圓
―自一月至四月―　郡下第一期漁况

本年一月から四月までの重要第一期漁況を見るに總漁獲高は百三十六萬五千九百四十八圓でこれを濱三郡に就いて調べて見ると

△石城百卅一萬八千二百十八圓　△双葉二萬二千四百五十二圓　△相馬二萬五千二百七十八圓

石城が斷然大部分を占めてゐるが、前年度前期に比すると九十六萬三千四尺十七圓で貫數にすると三千六十六萬六千九十八貫の増になつてゐる、漁獲物の重なるものは

△鰯卅萬圓△ヒラメ十萬圓△カレイ廿一萬圓△鮫十萬圓

千であつて各濱港別にすれば江名が最高で六十八萬四千百六十五圓、次は小名濱の四十七萬一千百八十六圓四倉が十三萬八千七百廿八圓等がこれに次ぐ成績である

濱名小進躍
町營魚市場と
―宏大な新開地出現
愈々將來を刮目さる

躍進途上に小名濱町では從來各方面に亘つて施設の擴大を圖つて居るが今回更に工費六萬四千圓を投じ同町水産試驗場南隣約八千坪の埋立工事に着工年内中に出來上る見込だかこれが完成後に於ては相當利用價値があるものと期待されてゐる

尚同町では愈々町營魚市場の新築工事（工費四萬六千圓）にも着手これ亦遲くも明年十月迄には漁都小名濱にふさはしい堂々たる市場が竣功する筈でこれが建設資金の起債等もすでに了し豫算決定を待つて直にその手續きをとる事になつた

南町中央　新道開設
年内には着工か

平町南町星眼科醫院側新道開設（延長二十間幅員四間）工事は昨年度施行の筈であつたが地元寄附金の纏らぬ關係から延期となつた、同町は三丁目南町を經て大町通りを結ぶ幹線となる新路だけに町でも是非今年度内に實施せんと今二十一日關係地元たる大町、南町、三四丁目にこれが寄附金二千圓の取纏め方を督勵する處あつた

マルトモ横丁鋪裝

平町驛前通り（驛前—四丁目裏堀以北延長六十五間）の鋪裝工事は年末を控えて明春三月に施工を延期、マルトモ食堂前より本町通り迄（延長二十八間幅員三間）は支障ないので町では數日前からこれが鋪裝の前提工事たる側溝工事を行つて竣功次第鋪裝に着手年内中には完成の見込みである

球界の掉尾を飾る
磐陽野球大會
愈々廿三、四日に決る

雨のため延期となつてゐた磐陽野球大會の準、決勝戰は二十三、四日の兩日湯本球場で開くが、平以外で開くのはこれが始めての事である，組合せ左の如し

二十三日午後一時　平鐵道——高月

二十四日午前九時　入山——磐炭

決勝戰午後一時

上下小川　村長選任
箱崎氏に決定交渉

上、下小川組合村では十九日村長選任の村會を招集した結果、現收入役箱崎伊之次郎氏が當選、目下同氏に交渉中

縣下で第二位
自慢にならぬ平署管内
水商賣人の出稼者數

湯本町職業紹介所調査によると昨年十一月から去月末の縣内藝、娼妓、酌婦、女給の出稼者中平署管内分は郡山の百六十三名に次いで百十八名

更に出稼季を月別について見ると、昨年の凶作騷ぎで十一、十二月が最も多く、七、八月の夏季には比較的少い、昨年に引續いて今年も一層の不作に今月末頃から弗々騷ぎ出すものと同所では早くもこれが對策をねつてゐる

尚同所では昨二十日同町役場に連絡小學校長を招き少年職業指導、就職後の指導及び平紹介所と同樣小學卒業兒の就職斡旋に關する職業指導研究會設立について熟議した

○○自動車協會打合○○

自動車協會石城支部では來る二十四日午後二時から平署會議室に役員會を開き過般竣功した自動車檢査場落成式其他を附議

小名濱澤庵
需要增加
人絹へ二回目供給

既報—さきに昭和人絹會社より澤庵二千貫の大量注文を受け生產者を督勵してゐた小名濱町では昨二十日更に五千貫の注文を受けたのに一層自信づき直にこれが準備に着手する一方各方面に對し『名產澤庵』の販路開拓にとりかゝつた

衆院選擧名簿　町會　縱覽者增加
肅正の反映に當局喜ぶ

平町の町會、衆議院議員選擧名簿供覽は去る五日から行ひ此程終つた、縱覽者は八十九名で例によつて少いがそれでも昨年より肅正運動と明春の衆議員總選擧を控へて約三倍に達してゐるので當局も喜んでゐる尚脫漏による異議申立者は九名であつたと

惡のドライブ

東京から乘り逃げて
濱街道を仙台方面へ
御難の近藤商會でも追跡
運公加藤（小川生れ）何處まで逃げる

下小川村字關場加藤甚一（二五）は去る十五日朝東京市下谷區下坂本町四八近藤自動車商會からダットサン貸切車（時價一、八〇〇圓、ホロ型警視廳ナンバー一二、九六三號）を借り受けた儘乘り逃げ

十六日に茨城縣助川でガソリンを入れ翌十七日には高萩を通つて郷里に立寄つた形跡から漸次逃げ足を北に向けてゐる事が判明したので近藤商會では直に警視廳から夫々手配、尚同商會の追跡隊は昨二十日夕刻平署を訪れ更に手配方を依賴して再び仙臺方面に向つた

同人は五、六年前助川で自動車助手をした事があるので地方の事情にも通じ最近運轉手免許を取つた男で某團體との連絡もあるらしいので目下嚴探中

火事泥と萬引
子故—と嘲つ
白士美知雄の盜み

貴金屬泥岡野の捕はれた一ひつかゝつた平町白銀町八生れ白士美知雄（三八）は其後取調べの結果

去月十八日南町鈴木綿工場火災の混雜に乘じ錦紗兵古帶を掻つ拂つたのを手初めに、同月末紺屋町鈴木豊太郎方からミルク二罐、玩具類數點、去る十八日夜南町遠藤繁次方から赤皮編上靴一足、同夜二丁目横幕仁三郎方からスリッパ其他を萬引した事自白、取調べに對し『寒さにふるへてゐる子供にアッタカイものを食べさせたかつたもんで：…』と父性愛の尤もらしい處を見せてゐた

貴金屬泥　近く送局

貴金屬泥岡野竹夫は引續き平署で取調べ中であるが、この盜みに先だつて盜んだ現金は月見町郵便局員菅野平次郎方、竊取鞄は臺屋呉服店平明智淺吉方と判明、其他コソ泥四件を自白、近く身柄を送檢の筈

偉いぞ消防手！
見ン事賊を捕へる
平窪組員十三氏表彰

平窪消防組第二部長小頭鈴木利一氏外左記十三氏は去る七月三十一日同村及小川赤井を股にかけ白米專門に荒し廻つた前科六犯男高木喜一を逮捕した廉により二十三日の消防檢閲に平署長から表彰を受ける

小頭小野甚平　伍長松崎政重　小野龜松　消防手和田惣右エ門　鈴木市郎　松崎朝吉　松崎伊三郎　下藤孝一　小野正雄　下藤一　和田正男　小野金治　山野邊義雄

○○小學教員總集會○○

郡下小學校教員會の秋季總集會は既報の如く來る二十四日午前十時から平第一校で開き補缺役員（會長）選擧、會員研究發表等の外縣師範校教諭小池元吉氏の講演あると

平町　虎眼檢診

平町のトラホーム檢診は昨報の如く來る二十五日から町内四醫師により開始す

從來この檢診には町民が一向無關心で受檢者はその何割にもすぎず罹病者累增の傾向にあつたので此際何れも受檢の上早期發見に努められたいと町當局では切望してゐる

○○○平町新穀感謝祭○○○

平町では二十三日の新嘗祭をトし午前十時から縣社子鍬倉神社に新穀感謝祭を擧行する

危險な高壓線泥
懲役一年を求刑さる
買人には略式で五十圓

勿來町關田字寺下山田村生れ土工前科一犯眞壁金太郎（三七）及び同人方同居磐崎村生れ土工前科七犯宮島武雄（五三）の兩名が共謀して去る三日夜同町四澤地内に架設してあつた昭和人絹會社所有の高壓線約七百瓩（價格約六百十七圓）を竊取した事件は今二十一日平區で中島判事係り、濱田檢事關與で公判開廷、何れも懲役一年を求刑された、又同町窪田字町通奏柘春（五三）は前記の賍品を買受けた外數件の無免許古物買賣發覺、略式命令で罰金五十圓に處された

石炭試掘許可

東京市日本橋區本町一丁目東邦鑛業株式會社出願の箕輪、永戸兩村に跨る三〇九、六〇〇坪の石炭試掘は此程許可された

○○○永年勤續消防表彰○○○

澤渡消防組元小頭鈴木信次氏は滿十一年勤續で二十九日、同消防元伍長大谷安雄氏は同上十八年で二十六日何れも平署の消防檢閲に柴田署長から表彰される

炭車に挾まる

好間村大字好間字椎木平四二後昭和坑夫薄井久昭（三〇）は二十日午前五時頃同村萩原炭坑昭和坑内で作業中折から疾走して來た炭車をさけんとして誤つて挾まれ瀕死の重傷を負ひ間もなく死亡した

青年學校　教練査閲

郡下青年學校の改稱創立最初の教練査閲は既報の如く査閲官藤井勇中佐擔當の第二區川前、永戸、三坂は去る十八日終了、黒石中佐擔當の第五區（郡內大部）は來月六日（湯本、磐崎）から開始される

七日上遠野　八日田人　九日勿來　十日植田　十一日泉　十二日小名濱　玉川　十四日江名　十五日鹿島　十六日夏井　十七日平　十八日好間　十九日箕輪　二十日平窪　△第三區（査閲官中村中佐）十五日大浦　十六日大野

車を附けた儘
馬暴れ廻はる
小名濱で行人一名負傷

十九日午前十一時半頃小名濱町軌道會社前で同町釜の前二〇後田德次郎（四五）の荷馬車が物音に驚いたか突如手綱を切り車を附けた儘疾り出し、人々が驚き騒ぐ中を驀進路上のリヤカーを蹴破した上之を避け損つた自轉車で漁况見歸りの同町横町八佐川廣一（四四）を蹄にかけ三間位引づつて右眼、兩膝に全治三週間の傷を負はせ街の勇者によつて辛じて制御されたが一時は大騷ぎであつた

11月22日

△最明寺時賴結迦他界（弘長三）△關東大震死傷十數萬（元祿一六）△德川十五代慶喜薨去（大正二）△内田鐵相陳情團に對し平小鐵實現を明言（昭和九）

二十二日
（小名濱測候所調査）

日出　六、一八　月出前　二、二七
日没　四、二七　月没後　一、四九
滿潮前　一、三五　干潮前　七、〇五
後　一、〇五　後　八、三〇

舊十月二十七日　金曜　壬寅　赤口　牛宿　新十一月廿二日

勝判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　氣運平康なれども大望を企て急進するは凶▲二黑　がん前の利よくなたくましうし後の損失罹を招く事あり▲三碧　進んで勇するに吉開店起業名弘建築等吉▲四綠　得手勝手の行動は一身を過ち一家をほろぼす▲五黄　長上の指導に依り前途が開たくするに至る日▲六白　思ひなとげんとするより退きて安全を謀れ▲七赤　分に應じたる事と思ひても意外に骨折あり▲八白　外廻りには不可なきも内わに不福の起る日▲九紫　大發展をとぐる日啓起に宜し但病し難注意

廣告

安齋外科醫院　平町田町　電四七五番

諸橋外科醫院
電四六四
平町新川町二七
內臟外科
皮膚科
花柳病科
レントゲン線
醫學博士　諸橋鐵彌
醫學士　奥義弘

開院
五十嵐産婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士　五十嵐雄一
電話三七〇番
（入院應需）

漆器　家具　神佛具　雜貨　文具　裁縫具
卸小賣
勉強　歡迎
小店員と女中募集
平町二丁目　近江屋　電話七一一番

◉おいしい事は日本一
◉安い事。日本一
美味　榮養　平ケーキ……
榮養增進の爲めに……
御家庭のお八ッに……
お子樣の間食に……
御訪問の御土産に……
祝儀不祝儀の引菓子に……
◎衛生的にも日本一!!
多少に不拘電話を御利用下さい。
磐城平町二丁目　日進堂本店　電話六三五番

友部は皆々樣の株式店です。
株式八一株ヨリ　債券八一枚ヨリ　御下命を願ひます
株式公債現物賣買　友部株式店
平・三丁目　電話一七七